



# 板碑の文字

高田智和(国立国語研究所)

## 板碑(いたび)とは

- 13世紀から16世紀にかけて造立された石製の供養塔
- 主に板状加工の青石塔婆
- 日本全国で5万基以上が現存(7割が関東)⇒”身近な文化財”
- 梵字種字(如来や菩薩を表す梵字)と記念銘(造立の日付)を記すのが基本
- 図像、造立の趣旨、真言を記すものもある



種字  
キリーク  
(阿弥陀)

銘文(紀年銘)  
嘉暦三年六月  
(1328年)

立川市の板碑で語彙量・文字量を計測  
・立川市史編纂委員会『立川市史研究』  
第5冊(立川市教育委員会、1966年)に  
影印収録された66基を対象

- ・語彙量  
延べ語数: 309語  
異なり語数: 95語  
1基あたりの平均語数: 4.2語
- ・文字量  
延べ字数: 697字  
異なり字数: 101字  
1基あたりの平均字数: 8.8字
- ・板碑は、音韻、語彙、語法、文法を考  
察するための言語資料には適さない
- ・しかし、日本中世金石文の文字・表記  
資料としての利用は可能

## 板碑の漢字字体—略字の使用—



嘉  
暦  
三  
年



嘉  
暦  
四



曆  
応  
三  
年